

<自由討論 トピックス>

- 地域活動と行政との関わりについて
- 地域資源の再生について

コメンテーター 田端 和彦(兵庫大学 教授)

- ◆地域活動と行政との関わりについて。まずは住民が動き出すことで初めて、行政も何らかのアドバイスができ、関わりを持つことが可能になると思う。
- ◆地域住民がせっかくいことを行なっている、例えばそれが何らかの法律に抵触するとなれば、とても残念なこと。従って、行政サイドもルールや法律を踏まえて、地域活動が可能になるように柔軟な対応が必要ではないか。
- ◆行政と住民との関わりに、ニュートラルなジャッジができるアドバイザー的な専門家が加わることも必要。この3者でのコラボレーションがうまくできると、地域活動もうまく回っていくのでは。
- ◆本当の意味での「協働」とは何か。NPOやボランティア団体が地域活動を続けていくには、やはり財源が必要。今まで公共がやっていたサービスを地域自らでやるわけだから、当然のことながら、“ただ”ではない。政府や自治体からの資金に加え、寄付や収益など色々な方法や仕組みを考えていかなければならない。
- ◆高齢者と地域コミュニティについて。高齢者になった時に、その地域で最後まで豊かに暮らしていくことが理想ではあるが、リタイアした人や、“田舎暮らし”にあこがれて中山間地域に移住してきた人たちが、地域のコミュニティにすんなり入ることができるかという、難しい面もある。少ない世帯で構成されている集落は、しがらみが強すぎて、外から入ってきた人を跳ね返すような雰囲気があるが、逆にかなり過疎化が進み、1軒1軒が離れている農村地では、もともと地域住民同士の関わりが少ないため、外から入ってきた人とも結構仲良くやれる場合もある。要するに「地域性」を考えた対応が求められる。

